

●木津川希少種植生調査管理業務 秋の除草作業

9月は気候が安定してすがすがしい季節で暮らしやすい季節の訪れとのイメージがある。その一方で二百十日とか二百二十日と言った台風や地震といった季節の怒りの月でもある。今年も大停電が発生している。計画運休で通勤の大混乱もみられた。来年はオリンピックのころに台風が来ればどうなるのだろうかと思いを募む。近頃は千変万化の気象で何があるか心配だ。気にしないで仕方ないと諦めがちになっている。なかなか熱中症対策から逃れられなくなって高温が続く、レンリソウ生育地に非常な勢いでセイバンモロコシが大繁茂したのが昨年だった。今年もその兆候が見られた。花が咲いて種になると手の施しようがなく大変困った昨年の経験から、ハンマーモアを草内倉庫から移動させることになっていたのも、早朝6時30分からまず天端の除草を始めた。旧式の約10年近く使用しているのを持ち出した。調子よくエンジンが始動した。これは良く仕事をしてくれると気持ち良かった。いつもかかりにくい代物であった。今日は違った。気持ちよく除草を開始する。かなり背が高くなって私の背を超えているものにも出くわす。大きく密集した株にもなっている。悪条件のところは自動的に負担の軽減がされるように刈り取り刃の部分が自動的に浮き上がる仕掛けになっている、順調に前進する。2時間ほど調子よく作業が進む、陽ざしが高くなると体温が急に上がる、頭が暑くなって、仕事を続けられない、ひと呼吸休憩をする。おなかが減っているのに気付く、コンビニに飲み物とお茶を買いに走る。この時間が休憩になり、腹ごしらえが出来てもうひと頑張り。しかし体温が上がって続けられない。100mを3往復する、これでよしと早朝からの作業を打ち切った。ハンマーモアを9時過ぎに収納する。事務所に帰りメールを読み返事をする。11時になって、新型のハンマーモアを使って除草作業をする。これもエンジンの調子が良い・気分が乗る、やる気が出る。作業を始めると新型は背が高くても密集した株も平気できれいに刈りとってくれる。威力が全く違う。見事に一度刈りできれいに仕上がってしまった。スピードは同じ速度ですが仕上がりが状況が段違いだ。正午近くなると陽ざしは朝とは全く違う強烈な暑さになった。体力が続かない。それでも頑張って2時間作業をする。手持ちの水もなくなった。朝からの旧型で刈り取った場所の二度刈りを実施、二速のスピードで行った。約1時間の休憩の後、もうひと頑張り水分補給をして1時間頑張った。明日は舞鶴市の青葉山への挑戦を予定しているので、体力温存と考えて、帰宅するとバタンキュー もう動けなかった。水分をたくさん飲んだが、唇はちっとも湿ってこなかった。

●竹蛇籠の主材料の竹の伐採が始まりました。いよいよ15日から蛇籠の製作が始まるので竹の伐採をお願いしている松見建設さんが行ってくれるので、竹藪の中の適正な太さを選別してほしいとのことで10日の火曜日、太田さんや有田さん福井さん深田さんと私の5人で立ち合いの8時30分に御藪に出かけました。松美さん達はすでに到着され出入り口用の草刈りを行っておられました。挨拶もそこそこにみんなで藪の中を直径7cmの簡易ノギスと目印を付ける赤色スプレーを持って、藪の中を歩き回りました。歩き回ったとの表現になりますが、四方八方に枯れた竹が倒れており、植物が絡まり思うように歩き回れなく、前に進むのがやっとということです。そのうえ適当な太さの竹探し出さなければならないのです。見当をつけて見つけても太すぎるとか、細すぎるということになって、なかなか目当ての太さに出会えませんそのうち藪蚊がブンブン出てきます。厄介ことです。まあそれでも70本以上の竹にスプレーをかけられました、皆さん全身汗でびしょり、10時前の休憩迄にはくたくたでした。20分間は腰を下ろしましたが、なかなかよしやろうという気が湧きませんでした。松美建設さん達は終日頑張ってくださいました。最初の納品数70本を一

本一本藪から出し重くて長くて扱いにくい竹を堤防の上に運び上げていただきました。まさに体力勝負の大仕事でした。私たちとは体力の差をまざまざと感じさせられました。 頑張っていたいた皆さん ご苦労様でした。あと 3 回同様の作業が必要です。ぜひお手伝いをお願いいたします。

●竹蛇籠製作講習会の初日が目前に 15 日(日)9 時 30 分集合で始まります。場所は玉水橋東詰 広場です。

今年も中聖牛の設置のために 27 本の竹蛇籠が必要になります。ただこれを製作することに目的を設定すると、伝統工法による河川管理が矮小化され、伝承や普及がおろそかにされてしまいますので、できるだけオープンに募集を行って、広く普及できるように取組みを行います。15 日の初日は地元田辺高校の生徒さん 3 名が参加すると連絡が来ています。若手の皆さんが関心を持っていたけることは願ったりかなったりで、里山の会が取り組んでいることが少しずつ浸透しているのではないかと思います。里山の会では深田理事長を始めにして 10 人が出席参加する予定としています。初日は 1 年ぶりの製作なので、編み方が思い出せるか心配です。しかし一度行えば大丈夫でしょう。今年は昨年製作していただいた高橋式の竹割機を使います。そして竹幅精製機の製作が成功したので、均一の幅の材料が供給されることになります。そして最後にひび入れ機・転圧機も準備できています。昨年は 280 本の竹を一度に全部割り上げ、ひび入れも同時に完了させました。約一カ月間に乾燥することを深く考えないで行った結果最終は(40 日以上露天にさらしておいた)、曲げると折れる事態を招き非常に苦労し新しい竹を追加したものです。この経験から竹割機に加えて今年は幅精製機、続いて割れ目入れ機の三種の動力機を整えたので、その日に使用する分量だけを割って、精製することができます。昨年の苦労や失敗を繰り返さなくてもいいことになりました。参加いただける皆様には柔らかくしなりのいい均一な材料を提供できることになりました。このチャンスに積極的にご参加お願いいたします。

●16 日は 8 月 18 日に実施した京都府の子どもの水辺で予定していたカヌー体験が増水のために開催できなかったのも、申込をされた皆さんに限って、カヌー体験を追加実施することになりました、予算や艇など準備にかなり多額の経費が必用になりますので、改めて公募は行いませんでした。9 時 30 分から教室を開始します。9 家族 31 名という大規模になりました。一度に全員の指導はかなり大変なので、2 回に分けた取り組みになるのではないかと思います。心配していた天気も秋らしくさわやかな気候の転換日にさしかかっているようです。

●9 月 9 日締め切りでした来年 1 月の「近畿子どもの水辺」は参加申し込み枠に満ちませんでしたので 9 月末まで受付期間の締め切り日を延長して受け付けることにいたしました。ぜひ多くの皆さんのお誘いの声を広げ、ご参加をお願いします。現在のところ京都府から 2 校、大阪府から 2 校、滋賀県から 2 校となっていて、奈良県や兵庫県産からは参加申し込みは届いていません、お誘いあわせをお願いいたします。参加申し込み学校は、高槻市立第六中学校、大阪市立新北島中学校 京都市立安朱小学校 京都聖母学院小学校アイキッズ エコアイディアキッズびわ湖 蒲生野考現倶楽部の 6 団体となっています。開催日は 2020 年 1 月 25 日(土) 会場は京都府八幡市文化センターです。子どもさんたちの交通費は実行委員会で負担させていただきます。